

1. はじめに

東京女子医科大学循環器小児科 高尾篤良

本研究班の研究の背景、目的、研究概要については、58年度に述べたごとくである。要約すると、分担研究者を本邦内各地域別、すなわち北海道、東北、関東、近畿、中国、九州に於て研究協力者を委嘱し、次の事項について調査した。

1) 地域別代表施設における診療圏での新生児心疾患の発生頻度と診療実態、その体系と流れの調査。

2) 各種非侵襲的診断法の適用現状と侵襲的診断法との等価、互換、相補、代用性の検討と、その診断管理への応用状況調査。

3) 各種小児心疾患の診断、治療、長期予後管理に対する再評価、諸種診断法、検査法の工夫と開発。

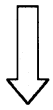
以上につき、59年度は58年度の経験をふまえ、調査症例、協力施設をふやし、データ抽出母体の確実化を図った。

前年度に述べたごとく、本邦に於ては従来、新生児期心疾患の疫学、診療実態について正確なデータはなかった。本研究は調査法とその精度、フォローアップなど諸要因に基く地域差は認められるものの、広域にわたる多数例の調査であり、重要なデータとして、医学上のみならず行政上に貢献するところ、大であろう。

新生児心疾患の診療実態をふまえ、60年度には新生児心疾患診療の手引を作成する予定である。

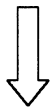
また、従来から継続している小児心疾患児の術前、術後、追跡管理については、小児の育成自立と社会参加への経過における諸問題を明らかにし、更に工夫検討を加えてゆく。

各研究協力者の報告を要約して各項目毎にまとめ、コメントを付した。また、早川国男氏、立石一馬氏の新生児心疾患調査データについては、全国統計の中に加え、各項目の部門には特記しなかった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1.はじめに

東京女子医科大学循環器小児科高尾篤良

本研究班の研究の背景,目的,研究概要については,58年度に述べたごとくである。要約すると,分担研究者を本邦内各地域別,すなわち北海道,東北,関東,近畿,中国,九州に於て研究協力者を委嘱し,次の事項について調査した。

- 1)地域別代表施設における診療圏での新生児心疾患の発生頻度と診療実態,その体系と流れの調査。
- 2)各種非侵襲的診断法の適用現状と侵襲的診断法との等価,互換,相補,代用性の検討と,その診断管理への応用状況調査。
- 3)各種小児心疾患の診断,治療,長期予後管理に対する再評価,諸種診断法,検査法の工夫と開発。

以上につき,59年度は58年度の経験をふまえ,調査症例,協力施設をふやし,データ抽出母体の確実化を図った。

前年度に述べたごとく,本邦に於ては従来,新生児期心疾患の疫学,診療実態について正確なデータはなかった。本研究は調査法とその精度,フォローアップなど諸要因に基く地域差は認められるものの,広域にわたる多数例の調査であり,重要なデータとして,医学上のみならず行政上に貢献するところ,大であろう。

新生児心疾患の診療実態をふまえ,60年度には新生児心疾患診療の手引を作成する予定である。

また,従来から継続している小児心疾患児の術前,術後,追跡管理については,小児の育成自立と社会参加への経過における諸問題を明らかにし,更に工夫検討を加えてゆく。

各研究協力者の報告を要約して各項目毎にまとめ,コメントを付した。また,早川国男氏,立石一馬氏の新生児心疾患調査データについては,全国統計の中に加え,各項目の部門には特記しなかった。